

小見川総合病院新改革プランの点検・評価
(令和元年度分)

香取市病院事業

経営指標に係る数値目標

項目			令和元年度		目標達成率 (%)	達成度	未達成の要因
			目標値	実績値			
経営 の 効率化	収支改善に係る もの	経常損益（百万円）	54	183	338.9	◎	
		経常収支比率（%）	101.7	106.0	104.2	◎	
		医業収支比率（%）	93.8	98.8	105.3	◎	
	経費削減に係る もの	医業収益対給与費率（%）＊	50.5	46.7	108.1	◎	
		医業収益対材料費比率（%）＊	25.6	24.9	102.8	◎	
		医業収益対経費比率（%）＊	27.2	26.6	102.3	◎	
	収入確保に係る もの	1日当たり入院患者数（人）	78	82.4	105.6	◎	
		1日当たり外来患者数（人）	444	434.7	97.9	○	診療枠見直しによる減少等のため。
		病床利用率（%）	56.9	58.3	102.5	◎	
		平均在院日数（日）＊	17.1	11.7	146.2	◎	
	経営の安定性に 係るもの	常勤医師数（人）	9	8	88.9	△	地域事情などの理由から、確保が難しい。
医療機能等 指標に係る 数値目標	医療機能・医療 品質に係るもの	救急患者数（人）	1,100	1,151	104.6	◎	
		手術件数（件）	970	1,167	120.3	◎	
		訪問看護件数（件）	900	905	100.6	◎	
		リハビリ件数（件）	13,300	12,537	94.3	○	整形外科医師1人の減員により対象患者数が減少したため。

※本年度は令和元年8月31日をもって解散した香取市東庄町病院組合と、その事務を継承した香取市病院事業の決算を合算した数値としています。

※目標達成率(%)の算出方法は「実績値÷目標値」となります。ただし、(＊)については「目標値÷実績値」となります。

数値目標に対する達成度

区分	評価の内容
◎	達成（目標達成率が100%以上の場合）
○	概ね達成（目標達成率が90%以上100%未満の場合）
△	未達成（目標達成率が90%未満の場合）

目標達成に向けた具体的な取組み

項目	具体的な取組内容	取組みに対する点検・評価
医師の確保	常勤医師を確保するため、医師の派遣を大学や県等へ継続して要望していく。様々な手法を検討する。	血液浄化や透析等を担当する非常勤内科医師の減員があり、医師確保対策の取組みの一つである人材派遣会社のコンサルティングにより、半年間の期限付きではあるものの、常勤医師1人を確保することができた。また、翌年度に形成外科の開設を予定していることに伴い、新たな大学と連携を図ることができた。
時間外救急体制の強化	常勤・非常勤医師を効果的に配置する。消防署、医師間の協力体制を構築する。	常勤医師と非常勤医師の連携を図り、救急外来対応から入院までの受入れを行った。また、前年度に引続き総合的な診療を行える宿日直業務専属の非常勤医師を確保したことで、時間外救急の受入体制が強化できた。
地域医療連携体制の強化	近隣病院や診療所と相互に情報交換を行い、効率的な医療提供体制を構築する。当病院と地域の病院や診療所の医療連携を深めていく。	地域医療支援室を窓口到他施設と情報を共有し、相互に患者の受入れを柔軟に行った。また、香取市から受託した認知症初期集中支援業務の実施に当たり、病院内に認知症初期集中支援チームを設置し、病院ホームページや院内掲示及び職員に周知を行うとともに、介入が必要な対象（20ケース）には、自宅への訪問や外来受診に繋げる介入を行った。
診療科目の検討	当病院で担うべき医療について地域医療環境を踏まえ診療科目等の検討を随時行う。	令和元年9月に開院した新病院では、標榜診療科目を14科目から13科目に見直しした。
病床利用率の向上	医師及び看護職員体制を整備する。効率的なベッドコントロールを行い、患者が速やかに入院できるように病床の効果的な運用に努める。	病床の空床状況を一覧表化し、医師・看護師をはじめとする医療従事者が把握できるよう各部署に随時周知することに加え、各部署間の連携を強化し「空床を作らない」という目標を共有することで、病床の効率的な運用と患者の受入れに努めた。新病院では2病棟体制となったことから、特に病棟間で協力し効率的なベッドコントロールを行った。
診療報酬請求の適正化	診療報酬の改定に伴う施設基準の変更、加算可能な診療報酬上の認定に関する届出を迅速に対応する。	令和元年9月開院の新病院では、病床数の変更に伴い算定可能となった施設基準の届出を速やかに行ったほか、新たに電子カルテを導入したため、コスト算定に遺漏のないようマニュアルを整備し、病棟看護師と事務職員がより連携を深め請求事務の適正化に努めた。なお、査定及び返戻率の削減を図るため、本年度は令和2年度診療報酬改定に向け、外部研修会で学んだ内容を職員間で情報共有した。

コスト削減の推進	材料費は値引率の有利なものを購入することはもとより、契約方法や発注方法等の見直しを行い効率的な購入をする。適正在庫量の設定、品目数の整理により適正管理に努める。 薬品は、可能な限り後発医薬品への切替えを速やかに行い薬品費の削減に努める。 業務委託は、業務内容の見直しにより外部委託の可能なものは移行するとともに、現在契約している業務の内容や仕様書の再点検を行い委託費の削減に努める。	材料及び薬品の適正管理に努めた。また、薬品については医師と協議し可能なものは後発医薬品へ切替えを進めている。 業務委託は、新病院の運用開始に伴い医事業務委託を見直し、経費の削減を図った。また、賃貸借物件でリース満了後に使用可能なものについては積極的に再リースを行い経費の削減に努めた。
計画的な医療機器の整備	高度医療機器の購入や更新については、耐用年数、使用頻度、診療上の必要性等を考慮し計画的な整備を図る。電子カルテを導入し、業務効率と生産性、医療の質・効率化・安全性の向上を図る。	令和元年9月に開院した新病院の建設事業に併せ医療機器整備及び医療情報システム導入を計画的に行った。このことにより、病院全体として医療機器の性能向上や電子化が進み、医療の質・効率化・安全性の向上が図られた。
人件費の適正化	患者数や医療提供状況に即した業務内容の見直しや職員定員適正化計画を策定し、業務に見合った効率的な人員配置に努める。再任用制度を積極的に活用する。	再任用制度の活用により、希望のあった看護職員4人を新たに採用し、そのうち短時間勤務職員3人は外来部門へ、病棟部門には新人看護職員を配置することで業務に見合った効率的な人員配置に努めた。なお、職員定員適正化計画については、引続き作成中である。
院内組織体制の改革	病院の建て替えに伴い、病床数が170床から100床に縮小する時期に合わせ、組織の見直しを行う。科の統合や管理職ポストの削減などを行い、病院の適正規模にあった体制への構築を図る。	本年度は新病院での事業運営が開始された。移行に伴い、経営形態を地方公営企業法全部適用に見直ししたほか、組織体制では副看護部長職の廃止及び病棟体制を3病棟から2病棟体制としたため、看護師長職を1人削減した。
経営向上に向けた会議の実施	毎月、開催する「香取おみがわ医療センター運営連絡会議」において、経営状況の報告を継続して行い、職員一人ひとりの経営に対する意識の醸成を図る。経営に対して重要な事案や早急に判断が必要な案件については、病院長をトップとした幹部で構成される「経営会議」を設置し、迅速な対応を図れるよう行っていく。	医局会では市長を交え毎月1回の会議を開催し、経営等に対する協議、検討を重ねている。また、幹部職員による香取おみがわ医療センター運営連絡会議を毎月開催し経営状況を把握しているほか、必要に応じて事業管理者をはじめとした経営会議を行い、様々な課題に対応した。
人材育成による環境整備及び経営感覚に富む人材の登用	高質な医療提供をするために、職員の資格取得や研修の支援を行い、院内環境整備を図る。病院経営に精通した経営感覚に富む人材の登用を検討する。	職員のスキルアップを目的とした資格取得や資格維持のために必要な研修の支援を行ったほか、本年度は管理職員（看護師長）の研修を行った。また、診療報酬に係る内容や医療安全、感染対策に関する研修を行い職員全体で共有した。